

5月30日(土曜日)「祝福を失ったヨブ」

【新改訳 2017】

## ヨブ記 1・13－22

「このとき、ヨブは立ち上がり、その上着を引き裂き……礼拝し、そして言った。『わたしは裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。』」(20、21節)

敬虔で祝福されていたヨブは、あっという間に次々と祝福を失っていきました。まずシェバ人の襲撃で若い者たちが殺されました。次に、天からの災害で羊と若い者たちが、さらにはカルデヤ人の襲撃、そして大風で家屋が崩壊し、家族が死んでしまったのです。また、のちにはヨブの体もひどい腫物で傷みました。なんと理不尽なことか……と絶句してしまいます。ヨブ自身もどんなにショックだった

でしょう。しかし、神が許されたことでした。彼は、その中でも主なる神をほめたたえたのです。

この後、2章から登場する4人の友人たちは、次々とヨブの罪のゆえだと言い、悔い改めさせようとしていました。ヨブはますます苦しむだけでした。各人の言い分は正しく見えても、この場合は、神のみこころに沿うものではなかったのです。助言も熟慮の上になされなければ、真の助けにならず、かえって苦悩を深くしてしまうことがあります。

～祈り～

主よ。私たちには理不尽に思われる悲惨な状態の中でも、ヨブはあなたをほめたたえています。少しでもこのような信仰に近づくことができますように。

【学びのために】

Ⅱコリント6・1－10参照。

